

公民館報 こすど

発行所 小須戸町公民館
編集者 矢部三郎
印刷所 矢部三郎

町警察署

三十日住民投票

存置か廃止か 化もなく治安に不安を感じた住民の投票。町警察署は、この投票の結果を待たずに、即日町選管委員会に住民投票を請求した。町選管委員会は、即日町選管委員会に住民投票を請求した。町選管委員会は、即日町選管委員会に住民投票を請求した。

新民生委員の顔ぶれ

- 町長 青嶋純
- 町副長 本間八五郎
- 委員 吉野五郎
- 委員 星野五郎
- 委員 関根テツ
- 委員 小柴五三
- 委員 矢代田 天々沢
- 委員 土田照山
- 委員 板谷寅五郎
- 委員 水田 鈴木
- 委員 木市 助

警察署の存廃は町民の意志で決まる

昭和廿三年三月以来施行された新警察法は、町民の意志で決まる。警察署の存続は町民の投票によって決まる。警察署の存続は町民の投票によって決まる。警察署の存続は町民の投票によって決まる。

高山廣治氏 総理大臣表彰に輝く

高山廣治氏は、総理大臣表彰に輝く。その功績は、町民の福祉に貢献したことに由来する。高山廣治氏は、総理大臣表彰に輝く。その功績は、町民の福祉に貢献したことに由来する。

矢代田分館の社会見学

八月三十日、小須戸町公民館分館で社会見学が行われた。参加者は、分館の施設や活動について詳しく学んだ。矢代田分館の社会見学は、町民の理解を深め、分館の役割を知ってもらう機会となった。

講和後に來たるもの？ 時局講座開講

時局講座が、町民の関心を引く。講和後の世界情勢や、日本への影響について、専門家が講演を行う。時局講座は、町民の知識を深め、社会問題に対する見識を広げることを目的としている。



講和後に來たるもの？ 時局講座開講

小須戸郷 連合婦人会發足

小須戸郷連合婦人会が発足。婦人たちの団結を促し、地域の発展に貢献することを目的としている。連合婦人会は、町民の生活向上や、社会問題の解決に取り組むための組織となる。

町連合婦人会 会長役員決定

町連合婦人会の会長と役員が決定された。今後の活動方針や、地域貢献の計画が発表された。町連合婦人会は、町民の生活向上や、社会問題の解決に取り組むための組織となる。

大火の御禮

大火の御禮として、町民の協力と感謝の意を表す。町民の協力のおかげで、被害を最小限に抑えることができた。町民の御礼として、町民の協力と感謝の意を表す。

なぎさ 赤い羽根

赤い羽根の活動が、町民の心を和ませている。赤い羽根の活動は、町民の生活に寄り添い、心の支えとなっている。なぎさ 赤い羽根の活動が、町民の心を和ませている。

10月30日 存置か 廃止か 町警察署 住民投票日

住民投票の日。町民の意志で警察署の存続を決める。投票時間、投票場所、投票の注意など、重要な情報を提供している。住民投票の日。町民の意志で警察署の存続を決める。

投票の注意。投票用紙の書き方、投票箱の使い方など、重要なポイントを解説している。投票の注意。投票用紙の書き方、投票箱の使い方など、重要なポイントを解説している。

二日	下野 加藤氏
三日	矢代田 庄在氏
五日	鹿谷 八木氏
七日	上八枚 関川氏
八日	天ヶ沢 久七氏
九日	天ヶ沢 久七氏
十一日	小須戸 青年会
十二日	小須戸 青年会
十三日	小須戸 青年会
十四日	小須戸 青年会
十五日	小須戸 青年会
十六日	小須戸 青年会
十八日	小須戸 青年会
二十日	小須戸 青年会
二十二日	小須戸 青年会
二十五日	小須戸 青年会
二十六日	小須戸 青年会
二十七日	小須戸 青年会

今年も盛大に文化祭を!

生活改善を重点に

さまざまな計画内容

全町をあげての大行幸文
 化祭も本年は第六回目を
 迎え、いよいよ十一月三
 日の同日開催されること
 になりました。毎年毎年
 同じものでなく今年は何
 か新しい形のものをも
 と、九月十日の運営審議
 会以来原案なしの懇談会
 や各部会や、会議を
 重ねるに九回、ようやく
 きた。四日の運営審議
 会、その大要がきまら
 した。今年の特筆すべき
 の面に重点をおいて町の
 皆さんから新しい時代
 の文化生活について御研
 究をいただくことに御
 ました。尚皆さんから何
 か新しい趣向とか、御
 希望等がありましたら今
 からでもおそくありま
 せんと、とり急いで公民館
 に御申出下さい。文化
 祭は皆さんの行事なの
 です。皆さんの御意見
 町づくり運動なのですか
 ら。

十一月三、四日
 第一会場 中学校
 第二会場 小学校
 三、主な役員
 会長 田中四郎
 副会長 海津良助
 旭 了雄
 長谷川鉄太郎
 村山吉五郎
 総務部長 岡野良助
 庶務部長 岡野良助
 会計部長 海津良助
 四、主な内容(順不同)
 生活改善展示会
 結婚改善の部屋
 台所改善の部屋
 栄養料理研究会
 不用品更生利用展覧会
 一般より募集、優秀
 作品には賞
 農産品展覧会
 牛馬健康診断
 商工物産展覧会
 織物、物産即賞金
 町で生産されるもの
 に限る
 町勢一覽室
 第二十五年度納税優良部



盛んだった町民運動会

第四回町民運動会は九月
 十五日町裏グラウンドで盛
 大に催された。
 今日一日だけ
 ば、おぼか
 もおぼか
 さでは花も
 じろの妙術
 御合衆から
 はなれた小
 四米リレ
 1 医療薬
 2 警察
 はしやぎ
 のが、折
 六米リレ
 1 横町 2 鎌倉 3 東
 下越代表決定戦
 1 横町 2 鎌倉 3 東
 1 中瀬 2 1 西瀬
 1 小瀬 2 1 西瀬
 1 中瀬 2 1 西瀬
 1 小瀬 2 1 西瀬
 1 中瀬 2 1 西瀬
 1 小瀬 2 1 西瀬

水田農事研究会

合理化、増産に燃える
 農家経営の合理化と増産
 意欲に燃える水田農事研
 究会が青年を主体とし
 別計画をたて、講座や見
 学で増産研究に邁進して
 いる。
 1 月農薬、肥料、農具
 2 月馬糞、堆肥、農具
 3 月土壌、施肥、見学
 4 月土壌、施肥、見学
 5 月土壌、施肥、見学
 6 月土壌、施肥、見学

早場米供出 九四、七%

小瀬戸の早場米は三、
 五五石の割当に対し
 て二、八七石、九四、七
 %の供出であった。何し
 ろ積付後の長い冷害と早
 生種が見かけより突入り
 が悪かたこと、刈入時
 の天候不順、更に調製期
 における電気事情の悪化
 など数々の悪条件にもか
 わらずよくこれを克服
 して苦心の供出であつ
 た。
 向新保部若井喜久太郎
 氏が廿六日早場米完納の
 一番乗りであった。

頑張り! 今一息だ

小瀬戸野球倶楽部はメ
 キと力を発揮し中瀬戸
 優勝チームとし各地に
 戦勝をあげ、最後の決勝に
 ついては、最後の決戦に
 ついては、最後の決戦に
 ついては、最後の決戦に

矢代田相撲大会

矢代田相撲大会は去月三
 日神明宮境内で開催され
 日通支店210小瀬戸

合理的養鶏

卵が安くなる農家で鶏
 方を於て、飼料不足と
 ばれつとも農家の先
 高くなる消費者が買
 のを手控える、この打
 策はいろいろあるが、
 養鶏経営を
 甘藷と麦を利用した
 配合飼料を
 少し位卵が
 安くつて
 ける方が
 第一である
 お米のよう
 に皆が食
 運になら
 養鶏も安
 して来る
 来る。こ
 のは粒飼
 のでこの
 包)で飼
 包)で飼
 包)で飼

新保分館第三回 囲碁将棋大会

囲碁 1 坂井清松 2 渡辺
 兵次郎 3 吉井幸一
 1 新保第四組 2 龍
 玄 3 新保第二組
 個人優勝 川瀬富雄
 個人優勝 川瀬富雄
 個人優勝 川瀬富雄

大火に贈るこの情

十月四日現在
 毛布六〇枚 蘇消防隊
 古着履衣 六二枚 日本
 赤十字社新保支部
 古衣類 三、〇〇〇点
 小瀬戸町婦人会
 金庫万圓 村山吉五郎
 金庫万圓 池田良三
 金庫万圓 池田良三
 金庫万圓 池田良三
 金庫万圓 池田良三

第四回町民運動会 賞品寄贈御礼

大野喜五郎 須藤商店
 新井田石屋 村山商店
 山本商店 佐藤商店
 渡辺商店 佐藤商店
 渡辺商店 佐藤商店
 渡辺商店 佐藤商店
 渡辺商店 佐藤商店

同好句会

虫時雨宮をめぐりてたりけり
 仕事着の我を月夜包み居り
 戸を閉める音静まれば虫時雨
 山宿の結ばしはしいこはばや
 山宿の結ばしはしいこはばや
 山宿の結ばしはしいこはばや
 山宿の結ばしはしいこはばや

小瀬戸 風土記

雁巻つゝみ 柏 大治
 雁巻は新保地内に属して
 いすがすでに文蔵地
 根なども地名が見え
 分古くから開墾された
 であつたから雁巻とい
 地名が付けられたとい
 ます。この雁巻に昔大
 池がありました。それ
 は正徳二年とい、六月
 十五日の雨で池が切
 十五日後には一面泥海
 となり、そのとき大
 穴ができて池となり
 ができて池となり
 今ではその池も埋
 今ではその池も埋
 今ではその池も埋

同好句会

成田流水 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈

同好句会

成田流水 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈
 加藤流燈 加藤流燈